



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 配当金受領株主 3月31日、9月30日 その他必要あるときは
 確定日 あらかじめ公告して定めた日
 定時株主総会 毎年6月に開催
 株主名簿管理人及び 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座管理機関
 同連絡先 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)
 東京証券取引所 札幌証券取引所
 電子公告により行う
 (http://www.hokkanholdings.co.jp/)に掲載
 いたします。ただし、事故その他やむを得ない
 事由により電子公告をすることができないと
 きは、日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所
 公告方法

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



HOKKAN HOLDINGS

ホッカホールディングス株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目2番2号
 TEL03-3213-5111(代表)
 URL: http://www.hokkanholdings.co.jp/



株主優待のお知らせ

毎年3月31日(基準日)現在の株主名簿に記載された株主様に対し、当社グループの容器に入った缶詰を年1回、以下のとおり贈呈いたします。

贈呈基準

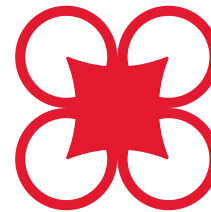
1,000株以上 5,000株未満
 —— 2,000円相当の缶詰詰め合わせ

5,000株以上 10,000株未満
 —— 3,000円相当の缶詰詰め合わせ

10,000株以上
 —— 5,000円相当の缶詰詰め合わせ



この冊子は環境への配慮のため、FSC森林認証紙と大豆油インキを使用しています。



HOKKAN HOLDINGS

ホッカホールディングス株式会社



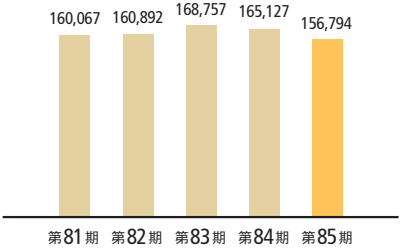
株主の皆様へ

HOKKAN REPORT

第85期 株主通信 Vol.9
 2009年4月1日～2010年3月31日

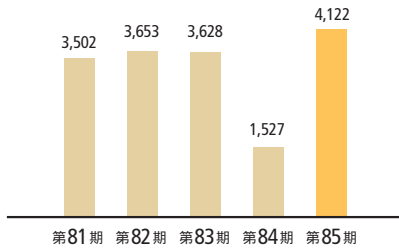
売上高

(単位:百万円)



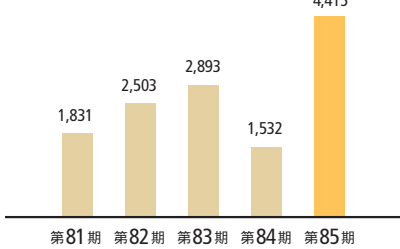
営業利益

(単位:百万円)



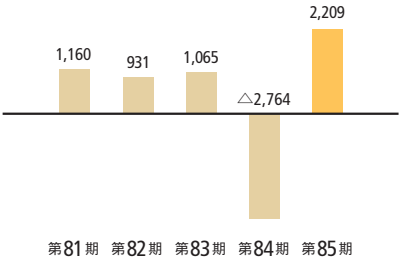
経常利益

(単位:百万円)



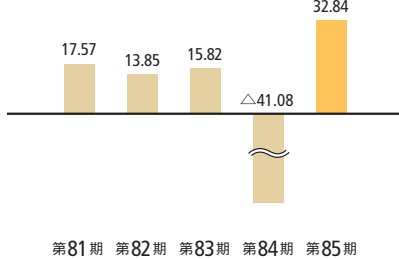
当期純利益

(単位:百万円)



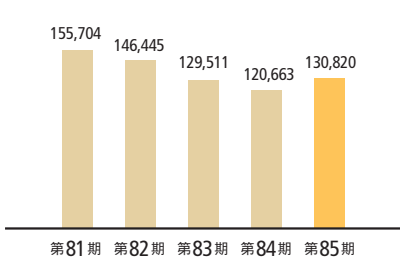
1株当たり当期純利益

(単位:円)



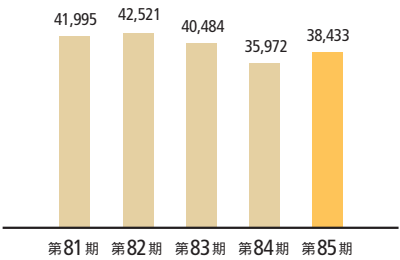
総資産

(単位:百万円)



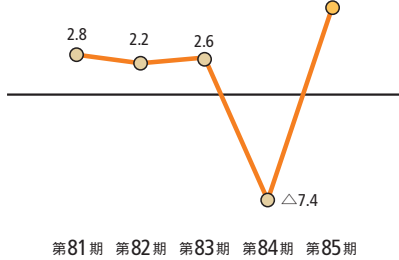
純資産

(単位:百万円)



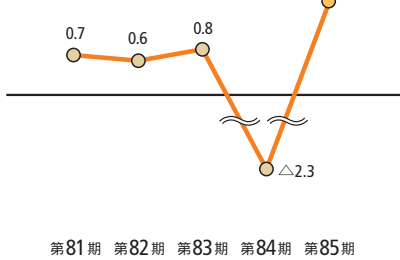
ROE

(単位:%)



ROA

(単位:%)



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第85期(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の営業概況ならびに計算書類につき、ご報告申し上げます。

事業の経過および成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、一昨年後半から続く世界経済の低迷から、輸出などに一部持ち直しの兆しは見えたものの、個人消費は依然として落ち込んでおり、国内景気の回復は脆弱な状況で推移いたしました。

当連結会計年度における清涼飲料業界の状況につきましては、所得・雇用情勢の悪化による個人消費の落ち込みや、最盛期である夏場の天候不順の影響を受けたことにより、業界全体では前年を下回る結果となりました。これをカテゴリー別にみますと、炭酸飲料が前年と同様、堅調に推移し、トマト・野菜ジュース飲料や乳性飲料が増加となりましたものの、コーヒーやミネラルウォーター、茶系飲料は前年を下回る結果となりました。

これらを容器別にみますと、ペットボトル製品は昨年に引き続き前年割れの結果となり、スチール缶製品につきましても前年を下回る結果となりました。

食品缶詰業界の状況につきましては、まず、水産缶詰ではサンマやサバなどの青物製品が順調に推移しておりましたが、夏場以降、消費の落ち込みなどにより減産となりました。また、主力のツナ製品につきま



代表取締役会長

代表取締役社長

永井勝己 工藤常史

しても、原料高騰の影響や海外からの製品輸入の増加が続いたため減産となり、その結果、水産缶詰全体では前年を下回る結果となりました。

一方、農産缶詰につきましては、みかん缶詰が豊作により好調に推移したものの、スイートコーン缶詰につきましては、夏場の天候不順による作柄悪化の影響を受け減産となりましたため、農産缶詰全体としては前年を若干下回る実績となりました。

事業別の概況

容器事業

飲料用スチール空缶につきましては、主力の缶コーヒー分野において、業界では前年を若干下回る状況のなか、当社グループは受注製品の販売が好調でありましたため、前年を上回る販売となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、主要販売品目のうち水産缶詰では、青物製品が業界の動向と同様に減産となり、また、ギフト用缶詰などが低迷した影響を受けたため、水産缶詰全体では前年を下回る販売となりました。また、農産缶詰につきましても、主力であるスイートコーン缶が、天候不順による減産の影響を大きく受けたため減少となり、食品缶詰用空缶全体では前年を下回る販売となりました。

つぎに、プラスチック容器では、飲料用ペットボトル分野におきまして、大型ボトルは順調に販売されたものの、280ml、500ml主体の小型ボトルについては、お客様によるボトル成形から充填までの一貫生産の拡大の影響を受けたため減少となり、飲料用ペットボトル全体では前年を下回る販売となりました。

また、無菌充填向けプリフォーム（ボトル成形前の中間製品）につきましては、積極的な営業活動の結果、新規に受注を獲得するなど前年を大きく上回る販売となりました。

食品用ペットボトルにつきましては、醤油や食用油分野における販売が堅調に推移いたしましたため、前年を上回る販売となりました。

一般成形品につきましては、洗剤用ボトルなどの販売が減少したものの、主力の農薬園芸製品や化粧品関連製品の販売が寄与したため、一般成形品全体としては前年を上回る販売となりました。

エアゾール用空缶につきましては、殺虫剤や新型インフルエンザの影響による除菌剤が好調でありましたが、自動車用品や工業用品、塗料などが関連産業の回復



の遅れや消費者の買い控えなどにより減少となりましたため、全体としては前年を下回る販売となりました。また、美術缶につきましても贈答用品の低迷が依然続いているため、前年を下回る販売となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は、495億44百万円と前年度に比べ2.0%の増加となりました。

充填事業

ペットボトル製品につきましては、大型ペットボトル製品は、スポーツ飲料が前年に引き続き減少するなか、茶系飲料の増産を図るべく営業活動を進めてまいりましたが、減少分をカバーするまでにはならず、前年を下回る販売となりました。また、小型ペットボトル製品につきましても、スポーツ飲料および果汁系飲料が減産となり、さらにお客様による自社充填比率の上昇による影響を受けたため、受注が減少し、前年を下回る販売となりました。以上の結果、ペットボトル製品全体では前年を下回る販売となりました。

缶製品につきましては、リシール缶（ボトル缶）製品が好調に推移したものの、主力の缶コーヒーが減少となりましたため、缶製品全体では前年を下回る販売となりました。

以上の結果、充填事業全体の売上高は、1,053億84百万円と前年度に比べ6.9%の減少となりました。



機械製作事業

機械製作部門につきましては、プラスチックボトル用ブロー金型や製缶用金型、エコ対応型プラスチックパレット成形ラインなどを受注いたしました。また、全体としては国内の設備投資低迷の影響を受けたため、機械製作部門全体としては前年を下回る結果となりました。

つぎに、エンジニアリング部門では、充填事業向け新工場建設や容器事業向けプリフォーム成形ラインを受注するなど、前年を大きく上回る結果となりました。

以上の結果、機械製作事業全体の売上高は、18億65百万円と前年度に比べ43.6%の減少となりました。

以上により、当連結会計年度における内部売上を消去した連結総売上高は1,567億94百万円と前年度比5.0%の減少となりましたが、経常利益は44億15百万円（前年度比188.2%増）、当期純利益は22億9百万円となりました。

対処すべき課題

来期のわが国経済の見通しにつきましては、世界経済が緩やかに回復が続けていることや、政府の経済対策、家計を支援する施策などにより需要が底堅く推移

し、景気は緩やかに回復していくと考えられておりますが、一方、原材料価格やエネルギーコストの上昇が予想されるなか依然不透明な情勢が続くと思われます。

このような状況のなかで、当企業集団といたしましては、持株会社への移行目的であります「グループ全体の最適な戦略立案」「事業会社の経営執行の監督」「グループ資源の最適配分」の機能に特化するとともに、各事業が環境変化に迅速に対応できる体制をさらに強化し、グループ企業価値を最大化させてまいります。各事業会社におきましても、「スピード経営」「環境適応力」「効率経営」を徹底し、成長可能な事業運営を行ってまいります。

来期につきましては、平成18年に策定いたしました中期経営計画（5カ年計画）「NEXT-5」の最終年度にあたり、「グループシナジー効果の創出」「事業拡大のための新たな取り組みへの挑戦」「経営効率、経営品質の更なる向上」を推し進め、次の中期経営計画へ向けて十分な体制を構築してまいります。また、メーカーの持続的テーマである「物づくり力の強化」も更に進化させてまいります。各事業会社におきましては、適正価格の維持・確保と生産性向上等によりなお一層のコストダウンを図ってまいります。

平成21年9月1日に連結子会社の株式会社日本キャンパック群馬第二工場において酸素欠乏を原因とする死亡事故が発生し、従業員1名の方がお亡くなりになりました。亡くなられた方のご冥福をお祈り申しあげますとともに、ご遺族に対し、心よりお悔やみとお詫びを申しあげます。また、取引先の皆様、株主の皆様には多大なご迷惑とご心配をお掛けしましたことを深くお詫び申しあげます。今後、グループを挙げて労働安全管理体制の構築・運営に努め、再発防止に向けて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

ホッカンホールディングスは グループ事業会社全体の力を統合し、 さらに高いレベルの「物づくり力」を追求します。

当社は持株会社として、各事業を強化するとともに、グループ企業との
アライアンスの発展を図ってまいります。

そして、“最大より最高”をモットーに、品質と価格の両面を併せ持つ
「物づくり力」を高めてまいります。

機械製作



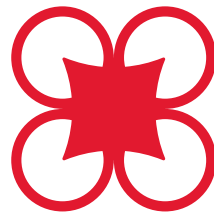
OS MACHINERY

「オーエスプレジションオレンジ」は、超
精密度を追求する同社の各種金型と各
種製造機械の安全性を表しています。

北海製罐株式会社や株式会社日本キャン
パックで使用する超精密度の金型から製造
機械、総合一般の製造ラインまで提供する
機械メーカーです。

オーエスマシナリー株式会社

2010年3月期
売上高 **1,865** 百万円



HOKKAN HOLDINGS

容器製造／販売



HOKKAI CAN

「ホッカンエバークリーン」は、同社のルー
ツである北海道の大地を象徴する緑、永遠
の若さ、生命力を表しています。

充填



NIHON CANPACK

「キャンバックアクアブルー」は、良質の
水に恵まれた工場を持つ同社のメリッ
トから、品質と潤いを表しています。

大手ブランドの飲料を空缶やペットボトル
に充填する受託充填企業です。調合から物
流までを請け負う総合力を持っています。

株式会社日本キャンパック

株式会社西日本キャンパック
日本キャンパック・マレーシア
キアンジュ・キャンパック・ベトナム

2010年3月期
売上高 **105,384** 百万円

食品用、飲料用などの空缶、ペットボトルな
どのプラスチック容器の開発、生産、販売な
ど幅広くおこなっています。

北海製罐株式会社

昭和製器株式会社 日東製器株式会社
東都成型株式会社
株式会社ワーク・サービス

2010年3月期
売上高 **49,544** 百万円

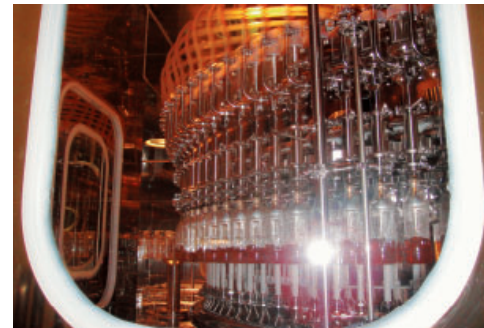
NIHON CANPACK



NIHON CANPACK

株式会社日本キャンパック

利根川工場ライン増設完了！
2010年3月より
操業を開始しました。



コーヒーをはじめ、果汁飲料、お茶など各種飲料の
調合から充填、包装、物流までを一貫しておこなう国
内トップクラスの受託充填企業(コントラクトパッ
カー)である株式会社日本キャンパックは、利根川工
場に無菌充填システムを使った第2ラインの増設を完
了し、2010年3月に操業を開始しました。同工場内
にはグループ会社である北海製罐株式会社のプリ
フォーム生産ラインも設置いたしました。

今回の増設では、ホッカングループが保有する容器
や充填事業のノウハウを一体的に活用し、同一工場内
での最適生産体制を確立。物流を含めたグループ総合
力を強化するとともに、容器、充填、エンジニアリング
のTPS(トータルパッケージングシステム)により高
品質、低コストを実現し、お客様の更なる満足度向上
を目指してまいります。

新ラインスペック



- ラインスピード
900本／分(500mlボトル)
- 年間生産能力
1,000万～1,100万ケース
- 生産品目
茶系飲料／コーヒー／
ミルク入り飲料等

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第85期 2010年3月31日現在	第84期 2009年3月31日現在
資産の部		
流動資産	49,267	45,328
現金及び預金	1,800	2,791
受取手形及び売掛金	35,962	29,989
たな卸資産	7,803	8,624
繰延税金資産	760	740
その他	2,967	3,252
貸倒引当金	△ 26	△ 69
固定資産	81,552	75,335
有形固定資産	65,143	59,386
建物及び構築物	22,337	19,155
機械装置及び運搬具	25,549	21,452
土地	15,895	15,538
リース資産	404	242
建設仮勘定	395	2,393
その他	560	604
無形固定資産	648	516
投資その他の資産	15,760	15,432
投資有価証券	12,988	11,428
繰延税金資産	605	1,894
その他	2,260	2,201
貸倒引当金	△ 94	△ 92
資産合計	130,820	120,663

科 目	第85期 2010年3月31日現在	第84期 2009年3月31日現在
負債の部		
流動負債	66,733	61,487
買掛金	30,482	28,481
短期借入金	29,963	28,785
リース債務	139	75
賞与引当金	685	674
その他	5,463	3,470
固定負債	25,652	23,204
長期借入金	22,169	19,479
リース債務	382	246
繰延税金負債	30	20
退職給付引当金	2,776	3,088
その他	293	369
負債合計	92,386	84,691
純資産の部		
株主資本	37,024	35,321
資本金	11,086	11,086
資本剰余金	10,750	10,750
利益剰余金	15,208	13,503
自己株式	△ 21	△ 19
評価・換算差額等	333	△ 342
その他有価証券評価差額金	332	△ 316
繰延ヘッジ損益	1	△ 25
少数株主持分	1,075	993
純資産合計	38,433	35,972
負債純資産合計	130,820	120,663

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第85期 2009年4月 1 日から 2010年3月31日まで	第84期 2008年4月 1 日から 2009年3月31日まで
売上高	156,794	165,127
売上原価	140,643	151,497
売上総利益	16,151	13,630
販売費及び一般管理費	12,029	12,103
営業利益	4,122	1,527
営業外収益	1,212	1,048
営業外費用	919	1,043
経常利益	4,415	1,532
特別利益	8	5
特別損失	1,092	4,351
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	3,331	△ 2,813
法人税・住民税及び事業税	181	242
法人税等調整額	862	△ 331
少数株主利益	77	39
当期純利益又は当期純損失(△)	2,209	△ 2,764

連結株主資本等変動計算書（要旨） 第85期（2009年4月1日から2010年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・ 換算差額 等合計		
前 期 末 残 高	11,086	10,750	13,503	△ 19	35,321	△ 316	△ 25	△ 342	993	35,972
当 期 変 動 額										
剰 余 金 の 配 当			△ 504		△ 504			—		△ 504
当 期 純 利 益			2,209		2,209			—		2,209
自 己 株 式 の 取 得				△ 1	△ 1			—		△ 1
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					—	649	26	675	81	757
当 期 変 動 額 合 計	—	—	1,704	△ 1	1,703	649	26	675	81	2,460
当 期 末 残 高	11,086	10,750	15,208	△ 21	37,024	332	1	333	1,075	38,433

会社概要 (2010年3月31日現在)

商	号	ホッカホールディングス株式会社
本	社	HOKKAN HOLDINGS LIMITED
設	立	東京都千代田区丸の内二丁目2番2号 丸の内三井ビル
資	金	TEL03-3213-5111
本		1950(昭和25)年2月1日(創立 1921(大正10)年10月23日)
従	業	110億8,652万4,995円
事	業	24名
	内	(1)各種空罐、容器の製造販売
	容	(2)清涼飲料水・酒類その他各種飲料の受託充填及び販売
		(3)各種機械の製造販売
		(4)機械器具設置工事業
		(5)倉庫業
		(6)土木・建築工事の設計、施工請負

役員 (2010年6月1日現在)

取締役会長(代表取締役)	永井勝己
取締役社長(代表取締役)	工藤常史
専務取締役	田村秀行
取締役	木村修二
取締役	山崎節昌
取締役	池田孝資
常勤監査役	酒井公平
監査役	寺嶋勉
監査役	増田嘉一郎
監査役	新名孝信



株式の状況 (2010年3月31日現在)

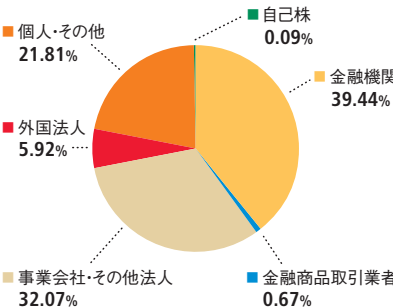
発行可能株式総数	240,000,000 株
発行済株式の総数	67,346,935 株
株主数	5,119 名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社トーモク	5,926	8.81
日本生命保険相互会社	3,274	4.87
株式会社みずほコーポレート銀行	3,273	4.87
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,468	3.67
株式会社メタルワン	2,267	3.37
ホッカホールディングスグループ取引先持株会	2,168	3.22
農林中央金庫	2,000	2.97
東京海上日動火災保険株式会社	1,805	2.68
株式会社北海道銀行	1,765	2.62
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,602	2.38

(注)持株比率は自己株式(60,335株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況



ホームページのご案内

ホームページアドレス

<http://www.hokkanholdings.co.jp/>

当社のホームページでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、当社の事業活動や動向を紹介しております。
当社をよりご理解いただくためにも、是非アクセスしてください。

